

マ行

マ		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
マアダ	マダ	未だ(いまだ)
マグレル	マヨウ	道に迷う, 道がわからなくなって別の道へ行ってしまう。一緒に行った仲間と離れてしまった時にも言う。「Aはシトンデ, キノゴ取りエッテ, マグレッチャタンダド(Aは一人できのこ取りに行って, 道に迷ってしまったそうだ)」
マゲ	イチゾク	一族, 血統。「Aは, アダマエエ, マゲダガンナ(Aは頭の良い家系だからな)」*「マキ」とも言う。
マゲル	アケル	(容器から水などを)空ける。*「ゲ」が鼻濁音になると「曲げる」の意味になる。
マサガ	マサカ	流石に, やっぱり, よもや, いくらなんでも, など色々な意味に使われる。
マジッペ	マブシイ	眩しい。「田の水サ, オテントサマの光, 照リゲえして, マジッポクテ(田の水が, 太陽の光を照り返して, 眩しくて)」
マッカチツカン	マッカ	真っ赤の意味を強めた言葉。「紅葉(もみじ)のハツパア, マッカチツカンダ(紅葉の葉っぱが真っ赤だ)」*普通には真っ赤を「マッカチ」と言っている。
マッチガク	マッシカク	真四角(ましかく), 正方形
マツツグ	マッスグ	真っ直ぐ(まっすぐ)
マツト	モツト	もつと
マヌゲ	マヌケ	間抜け, うっかりもの
マビラガス	ミセビラカス	見せびらかす, 見せて自慢する
マンビル	マビル	体長10センチ以上もある大きな蛭。大きいので「馬蛭(まびる)」と言われた。

ミ		
若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ミイエル	ミガイル	実が入る(いる), 実る, 熟す。「ミンミン, ナエダガラ, トンモロゴシ, ミイエッタド(ミンミンゼミが鳴いたから, どうもろこしも実ったぞ)」
ミシカエ ミチケえ	ミチカイ	短い。「ミチケハウガ, エエヤ(短いほうがいいや)」
ミッチリ	シツカリ	確り(しっかり)。「オッコヂネえように, ミッチリ縛ってクロ([荷物が]落ちないようにしっかり縛ってくれ)」
ミットモネえ ミドモネえ	ミトモナイ	みっともない, 外聞が悪い, 人目に対して恥ずかしい。「ミットモネえマネ, スンナ(みっともないまねをするな)」*「見とうもなし」から。

ミデグリ(レ)	ミバ	見端(みば), 見たところは, 見かけは, 外観。「ミデグレは, 悪エケンド, シマエド, コレ。くってミロ(見かけは悪いけど, うまいぞ, これ。食ってみろ)」* 見端は方言ではない。「見栄え(みばえ=外見が良いこと)」とは違う表現。
ミバワリイ	ミバワルイ	見端悪い(みばわるい), 外見が悪い。「ミバワルガッペケド, サムエヨリヤ, ヨガッペえ(見かけは悪いけど, 寒いよりは良いだろう)」

ム

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
ムエムエ	...	竹を割って, 10センチ×2センチ位に削り, 中心を挟んで1.5センチ位の間隔で2つの穴を開け, 糸を通して輪に結ぶ。糸にひねりを与えてから, 両親指をかけ, 手を左右に開いたり閉じたりすると竹が回りだす。この時ムウエムウエと音を立てて回るのので, この名がある。子どもたちの遊び道具である。(ぶんぶんゴマ・びゅんびゅんゴマのこと)
ムギモナグ	ケントウチガイ	見当違い, 方向を見定めないですること, いきなり。「そんなにムギモナク, シツパツタツテ, トレネエド(そんなにやみくもに引っ張ったって, 取れないぞ)」
ムグッチョ	カイツブリ	かいつぶり。他にかいつむり, におどり, にお, と色々呼び名がある。水に潜って小魚を捕食する。良く潜るので「ムグッチョ」の名がつけられた。
ムスビ	ニギリメシ	握り飯。飯を「握る」ことを「結ぶ」という。「腹あ減ったガラ, ムスビクロ(腹が減ったから, 握り飯をくれ)」
ムソエ	ナガモチスル	長持ちする。「このテッポダマ, マアダナグナンネえ。ズエブン, ムソエナア(この飴玉はまだなくならない。ずいぶん長持ちするなあ)」

メ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
メエマワル	メガマワル	目が回る。* 助詞の「が」が主語の長音に変わった。このような訛りは数多い。若柴言葉の特徴であると思う。
メエボロ	カタツムリ	蝸牛(かたつむり)。昔は「マイマイツブリ」「マイマイツボロ」などと言い, それが訛って残っている。
メエル	ミエル	見える「トンビ, トンデンノ, メエッカ(とんびが飛んでいるのが見えるか)」
メツケル	ミツケル	見つける, 探す。「Aは50銭銀貨ア, メツケタンダッチケ(Aは50銭銀貨を見つけたんだそうだ)」「ナニイ, メツケテンダ(何を探しているんだ)」
メツツブ	メシツブ	飯粒。簡易な糊の材料に利用した。

メドッコ	アナ	穴を「メド」と言い、後ろに「コ」がついた。* 後ろに「コ」が付く言葉が少しある。「オゲッコ(桶)」、「カメッコ(瓶)」など。
メングルマアル	メガマワル	自分でグルグル回って、目を回して眩暈(めまい)状態になった時のこと。「メンドオマンガレ」とも言った。
メンメズ	ミミズ	みみず

モ

若柴言葉	アルベキスガタ	解説・用例・その他
モオリッコ	モリッコ	守子(もりこ)、子守に雇われた少女
モグ	モ	藻、水中の草
モグゾガニ	モクズガニ	藻屑蟹(もくずがに)。鋏(はさみ)に、藻の屑が絡まったように毛が密生している川蟹。
モグレル	ムクレル	むくれる。「フスクレル」と同じく、怒りを内向して持っていて、態度に表す。
モグレンジ	ムクロジ	ムクロジ(木の名前)の実。羽根突きの羽根(黒い部分)を作る
モチ	モチ	餅。「オビドギノ、モチツキ、テズナエダ(帯解き[おびどき=子どもが数え年七歳になったときのお祝い]の餅つきの手伝いだ)」
モッキ	ムクゲ	木槿(むくげ)。漢字を音読した「モッキン」が訛った。
モッタネえ	モッタイナイ	勿体無い(もったいない)。「コンナノ、ステデ、モッタネえ(こんな[良いもの]を捨てるなんて勿体無い)」
モッチ	モチ	鳥糞(とりもち)。細い竿の先に付けて、小鳥やトンボなどを刺して捕らえた。「餅」と区別するためこういった。
モンズ	モズ	百舌鳥(もず)。多少他の小鳥の鳴き声を真似る。
モンピキ	モモヒキ	股引(ももひき)。* 普段はあまり言わないが、田に入るときのは「タモンピキ」と言った。
モンモ	モモ	桃。その他の草木の実にも言うことがある。(幼児語)

※赤字の部分は生涯学習課が追加しました。